



# バリアフリー推進レポート



## 第9回岡山県バリアフリー等地域連絡会議を開催しました！

バリアフリー等地域連絡会議は、平成22年度から中国地方各地でのバリアフリー化を推進する目的で、各県において隔年で開催しております。

この度、第9回岡山県バリアフリー等地域連絡会議を下記のとおり開催しました。

### 【会議概要】

日時： 令和8年2月4日（水） 14:00～16:00

場所： オンライン上で実施

- 議事： (1) 開会挨拶（岡山運輸支局長） (5) 第4次バリアフリー整備目標最終とりまとめについて  
(2) 座長選出・挨拶 (6) 構成員等のバリアフリーに関する取組状況  
(3) 運営要綱の一部改正について (7) 意見交換  
(4) 第7回移動等円滑化評価会議 (8) 閉会挨拶（岡山県子ども・福祉部障害福祉課総括参事）  
中国分科会の報告について

### 【構成員】

#### ○学識経験者

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部  
医療福祉デザイン学科 講師 森 絵美

#### ○高齢者・障害者団体

公益財団法人 岡山県身体障害者福祉連合会  
社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会  
公益社団法人 岡山県聴覚障害者福祉協会  
特定非営利活動法人 岡山県精神障害者家族会連合会  
一般社団法人 岡山県手をつなぐ育成会  
特定非営利活動法人 岡山県自閉症協会

#### ○施設設置管理者

西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部  
井原鉄道株式会社  
水島臨海鉄道株式会社  
岡山電気軌道株式会社  
公益社団法人 岡山県バス協会  
一般社団法人 岡山県タクシー協会  
一般社団法人 岡山県旅客船協会  
岡山県旅館ホテル生活衛生同業組合  
岡山空港ターミナル株式会社

#### ○行政機関

岡山県  
岡山市  
倉敷市  
中国地方整備局・中国運輸局



座長 川崎医療福祉大学 森講師



岡山運輸支局長 開会挨拶

## 【構成員のバリアフリー取組状況(概要)】

《西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部》

- 継続的なマインド面・介助スキルの教育実施とマニュアルの見直し、社員によるお声掛け・見守りと併せて、お客様同士で助け合う共助の促進、分かりやすい情報提供の充実等、ソフト対策に取り組んでいる。

《水島臨海鉄道株式会社》

- 列車の運行状況を表示するデジタルサイネージを設置。先発・次発・次々発の列車の出発時間と行先を表示し、列車接近時には音楽・音声により注意喚起と行先をお知らせ。日本語・英語の2か国語対応

《岡山電気軌道株式会社》

- ろうさい病院にバスの運行サイネージを設置。従来の紙時刻表に比べて分かりやすく運行情報を提供できている。また、築港栄町のバス停にバリアレス縁石を設置。

《一般社団法人 岡山県タクシー協会》

- UDタクシーの導入と乗務員の人材育成としてユニバーサルドライバー研修を毎月2回実施している。

《公益社団法人 岡山県バス協会》

- 次世代型電動車椅子「WHILL」利用者が安全にバスを利用できるよう、WHILL販売店協力の下、バス会社と勉強会を行った。また、WHILLを運転手が実地体験するための研修会も開催。各バス会社が研修会を随時実施できるよう、国の助成金を活用して2機種購入し、無償貸与している。

《岡山空港ターミナル株式会社》

- 2023年に実施したユニバーサルデザイン診断を参考に、点字タイルのJIS規格品への変更5か所、バリアフリートイレ内へのカーテン設置6か所、自動ドア風除室ガラス面への衝突防止シート施工等の改修を行った。

《岡山県》

- NPO法人まちづくり推進機構岡山の協力により、県及び市町村の施設整備の指導・建設に携わる若手技術職員を対象に、ユニバーサルデザイン体験会を開催した。

《岡山市》

- 岡山駅東口駅前広場の一般車乗降箇所は段差がないフラットな設計とし、視覚障害者誘導用ブロックを設置した。高島駅南口駅前広場の出入りについて、駅前広場整備にあわせて新たにスロープを設置した。
- 岡山市役所本庁舎1階にコード化点字ブロックを1か所設置している。専用のアプリで読み込むと音声案内を聞くことができ、視覚障害者への情報保障をすることができる。

《倉敷市》

- 中庄駅前の歩道のデザインが誘導ブロックと酷似しており、視覚障害者にとって見分けが難しいという御意見を受け、誘導ブロックの色を分かりやすい色に塗り直す予定。

《公益財団法人 岡山県身体障害者福祉連合会》

- 身体障害者の社会参加と自立を促進するために、盲導犬と介助犬を1頭ずつ育成・貸与したほか、県下の身体障害者相談員の活動を支援するため、合理的配慮や災害時の備えについて研修を実施した。

《公益社団法人 岡山県聴覚障害者福祉協会》

- 川崎医療福祉大学が医療用コミュニケーションボードを作成するため、聴覚障害者のアンケートに協力した。

## 【意見交換(抜粋)】

### 《クルーズ船の対応について》

- 9年前、聞こえない夫婦2組のみでクルーズ船に乗船できるか訊ねたところ、聞こえる人と一緒であれば問題ないと回答された。聞こえない人だけでは乗船できなかったことで、社会から拒否されたように感じたという。現在はどのように対応されているのかお聞きしたい。

### 《回答》

- 現行のガイドライン上では、当事者の求めに応じ、筆談等で対応することを求めている。ただし、安全上の理由等で付き添いを求める場合もあるため、相互に立場状況を理解し、建設的対話をしていただきたい。
- 当該事業者の現在の対応としては、聴覚障害の方のみでの乗船も問題ないとのこと。申し込みを検討する際、御質問等旅行代理店へお問い合わせ、もしくは当該クルーズ事業者のお問い合わせフォームより御確認いただきたい。

### 《タクシーアプリについて》

- タクシーアプリでは呼べる地域と会社が異なるため、サービス対象地域を制限なく利用できるようにしてほしい。

### 《回答》

- 令和6年10月に自治体に向けて配車アプリを事業者が導入するための支援に関する要望活動を行った結果、令和7年度から自治体の支援を受けることになった。現在、岡山市、倉敷市、津山市、総社市において、配車アプリの導入が増えている状況である。

### 《JR駅について》

- 非常時には場内放送だけではなく、デジタルサイネージ等を使ってメッセージを視覚的に表記してほしい。
- みどりの券売機プラスについて改善を求める提案をしたが、その後どのように取り組まれたかお聞きしたい。実例では、手続き中後ろから見られるのが不安だったケースも起きており、パーテーションを設置してほしいとの声がある。また、対応のため「手話リンク」の導入を検討してもらいたい。
- JRきっぷに関して、スマートフォンを活用して身体障害者割引で購入できるシステムの構築を求めたい。スマートフォンで改札口を通れるようにできればなお良いと思う。

### 《回答》

- 非常時の緊急情報の視覚化について、一部の駅ではあるが、ディスプレイや発車表、エスコムという簡易運行情報表示端末を設置することで、視覚的に異常時の情報提供を行っている。
- みどりの券売機プラスについて、前回会議以降の取組としては、使い方の講習やオペレーターの増員、機器の処理スピード向上を図っている。また券売機にはカメラが設置されており、対面と同様に筆談することが可能となっている。「e5489」では券売機に並ぶことなくオンラインでチケットを購入でき、「ミライ〇ID」と連携することで障害者割引を御利用いただくことも可能なので、御活用いただきたい。
- 上記に加え、JR西日本のアプリ「WESTER」でも異常時の情報や券売機の混雑状況を発信しているため、御活用いただきたい。

### 《第4次バリアフリー整備目標について》

- 「障害者の社会モデルの理解度」の目標が60%となっているが、なぜ100%ではないのか。また、60%の根拠を教えてください。

### 《回答》

- 整備目標を100%にすべきという意見は御指摘のとおりだが、2025年度までの目標として「心のバリアフリーの認知度」というものがあり、目標値は50%であった。その中で、本省にて有識者を交えて検討を行った上で設定された数値だと認識している。

### 《心のバリアフリーについて》

- 「心のバリアフリー」について、課題が多いと感じているが具体的に何をどう改善すべきなのか、どのように心がける必要があるのか定義がわからないため、皆様の御意見をいただきたい。

### 《回答》

- UDタクシーの研修では、自動車は汎用性が高い移動手段だが、御利用する方によって障害がある部位や体格に違いがあり、乗務員がお客様のニーズをお聞きしながらストレスなく御利用いただくための配慮を心がけるように講義している。ハード面で補うことができない点について、相手に寄り添うことでより利用しやすい環境を整えることが「心のバリアフリー」だと認識している。

← ● 「心のバリアフリー」は漠然としたことが多いが、活発に話題にあげていただき、相互理解を深めることが解決につながると考えている。一朝一夕ではないが、ハード面の整備に関しても、「心のバリアフリー」を常に考えていただくようお願いしたい。

- 相互理解のためには信頼関係も重要であり、短期間で解決することは難しいかと思うが、話し合いを繰り返してお互いに歩み寄ることが大事だと考える。

### 【座長まとめ(概要)】

「心のバリアフリー」の話もあったが、それぞれの団体において人材育成や研修など、解消に努めていることを感じた。それだけでなく、ハード面でもデジタルサイネージ等を上手く活用する工夫についても改善点として挙げていただいたところである。利用者からすると1つの課題が解決する一方で、その他にも解決する課題は存在すると思うが、今回のような情報交換の場を設けて、相互理解に向けた環境を継続する必要があると考える。

